

日本の仏教と精神文化を世界へ伝えた鈴木大拙は昭和四十一年（一九六六）七月十二日に九十五歳で逝去し、本年で没後五十年の節目を迎えます。大拙の言葉と嚆矢に接した数多くの後進は宗教界だけでなく芸術界や財界にも多く及び、その影響は世代と海を越えて未だ止むことはありません。大拙の学問的研鑽は禅と浄土学の成果としては尚も学究の徒にとつて里程碑であり、禅や日本の靈性を根底にした文化論は、近代史や近代思想の対象ともなるべき価値を見出されるようになって参りました。殊に我々美術大学にとつて戦後の日本前衛芸術家達が思想的支柱として大拙の言葉を消化していたことは見逃すことができない事実です。近年欧米でも高まる戦後日本芸術を理解する上で、鈴木大拙は了解しておくべき存在として今後さらに注目が増して違ひありません。

多摩美術大学美術館では、没後五十年を記念し鈴木大拙及び大拙が創立を主導し初代理事を務めた公益財団法人松ヶ岡文庫（以下、松ヶ岡文庫）の展覧会を開催いたします。松ヶ岡文庫は大拙が、師である釈宗演の遺志を継承し発願した仏教文庫であり、昭和二十年（一九四五）北鎌倉に設立されました。七万冊の仏教関連書籍を蔵することの日本有数の仏教文庫は七十年の歴史を刻み、禅籍を中心とした収集と閲覧・公開の拠点として世界とのネットワークを構築してきました。また大拙が起居し研究、執筆を続けた場所としても知られ、実際に大拙が用いた典籍と共に書簡や日記など大拙に縁を持つ品々を多く伝えています。

本展は松ヶ岡文庫の所蔵品によつて鈴木大拙の足跡をあらためて浮き彫りにすると共に、松ヶ岡文庫の歩みを提示する初の試みとなるものです。会場では手稿・日記の他、写真や動画などの映像資料が描く大拙の姿、大拙と強い繋がりを持つた西田幾多郎や柳宗悦、夫人ビアトリス・レーンなどの手紙や墨蹟、仏教学への思いが明らかになる書籍やノートなどをご覧いただけます。これらの出品は彼らと結んだ絆を語り、皆様にも活き活きと届くことでしよう。さらに大拙の理念に賛同し松ヶ岡文庫の草創に寄与した安宅彌吉、出光佐三の尽力、大拙亡き後に松ヶ岡文庫の運営に腕を振るつた古田紹欽などについても取り上げる他、柳によつて松ヶ岡文庫に備えられた民藝作家の工芸品も出品致します。これらから人と人の信頼や友情が紡いできた松ヶ岡文庫の歴史、そして仏教学の碩学として常に影響を与え続けてきた鈴木大拙のヒューマニズムを感じていただければ幸いです。

本展では同文庫が所蔵する文化財として、観音菩薩半跏坐像および東大寺連弁拓本が出品される他、これまで未調査であった江戸・明治期の仏教図像や神像が刻まれた版木が初公開となります。本展の為に制作された版本と共に、美術的・近世日本の精神史を語る文化的意義を有するこれら版画をお楽しみください。

末尾となりましたが、本展の開催にあたり惜しみないご協力をいただいた松ヶ岡文庫の皆様、貴重なお助言とご協力をいただいた各機関と皆様深く御礼申し上げます。